

さくら第451号

平成29年7月

さくら

発行所 さくらそろばん
発行者 平瀬重雄
春江町境 17-7:ℓℓ51-1337
hirase@mx2.fctv.ne.jp

他人の物指し
自らのものさし
ちがうんだな
ちがうんだな

『ウサギとカメ』

皆さんは「ウサギとカメ」の物語はよく知っていますね。「イソップ寓話」は400話ほどありその中でも、「アリとキリギリス」、「北風と太陽」、「金のオノ」などは特に知っていますね。ギリシャのイソップ・アインポスという人が紀元前6世紀ごろに作った寓話(ぐうわ)であり、日本へは1593年に九州の島原のイエズス会というキリスト教関係の人へローマ字で書かれたのが持ち込まれました。江戸時代初期に「伊曾保物語」として書かれ、明治時代になって教科書などで学び、広がっていきました。

ドイツの民話をもとにしてグリム兄弟が1812年に著した「グリム童話」、18世紀にデンマークの小説家アンデルセンが子どもの心を豊かにさせる物語とした「アンデルセン物語」などとともに小さいころから読み親しんできました。

さて、話をウサギとカメに戻します。内容はよく知っているように、ウサギが足の遅いカメと競争するのですが、ウサギは油断していねむりしたために、カメに先を越されて負けてしまったという話ですね。

この物語から学ぶことは、相手の力をバカにし見くびってはいけない、油断大敵です。またカメは歩くのが遅いけれども、あきらめず、コツコツがんばればきっと良いことがあるから、最後まで気をぬかずがんばろう、というような内容ですね。イソップ物語にはこのような話が多くあり、努力することの大切さを教えています。

ところで、ウサギとカメの話には続きがあります。負けたウサギは仲間たちからカメに負ける

とは何という恥さらしだと非難され、仲間外れになってしまいます。

悲しみにくれるウサギは木の枝でささやく小鳥たちの話し声を耳にします。何と、オオカミが小ウサギを狙っており今にも食べに行くと言っています。話を耳にしたウサギは作戦を立てオオカミを崖の上へとさそい込み、後ろから谷底へ落としてしまいました。

それを知った仲間は大喜びでそのウサギとまた元通りの仲良しになったとのことでした。

こんな話もあります。カメはもう一度ウサギと競争をしますが今度は負けてしまいます。走ったあと皆があつまったとき、カメは笑顔でいました。負けたのになぜ嬉しい顔なのかと聞かれたカメはこう答えました。「前の時より2回目に走った時のほうが速く走れたから」と。

ウサギとの競争よりも自分との競争だったわけです。前よりもレベルアップした事が嬉しかったというわけです。

違う話があります。カメはまともに走ればウサギに勝つことはまずありえません。そこで家族で作戦を立てます。カメの走る場所は草むらとウサギに言い、家族を何か所にも待機させておき、自分は前の日にゴールで待っており、ウサギが草むらに来たらそれぞれのカメが話かけます。そうとは知らないウサギはいくら速く走ってもすぐ横からカメの声が聞こえるのであせつしまいます。やっとゴールについたと思った時に、先回りしていたカメがさっと顔を出したのでビックリ。どうして負けたか分からずじまい。

ウサギとカメの話にはいろいろ学ぶべき事柄があります。油断大敵、自分より下と思ってあなどるな。負けると分かっているでもやり抜くことで思わぬよい結果もあります。人に勝つことも必要ですが自分のレベルアップが大事です。

私が思うに、カメはなぜ川の中で競争をしなかったのだろうか。場所と方法がちがえば結果もまた変わります。いろいろな対応の仕方があることを夏休み中に体験してみましよう。物事を違う角度から考えるとおもしろいですね。